

門 13
 號 3740
 卷 39

時代鏡

廿編上之卷

春水作
 國貞畫

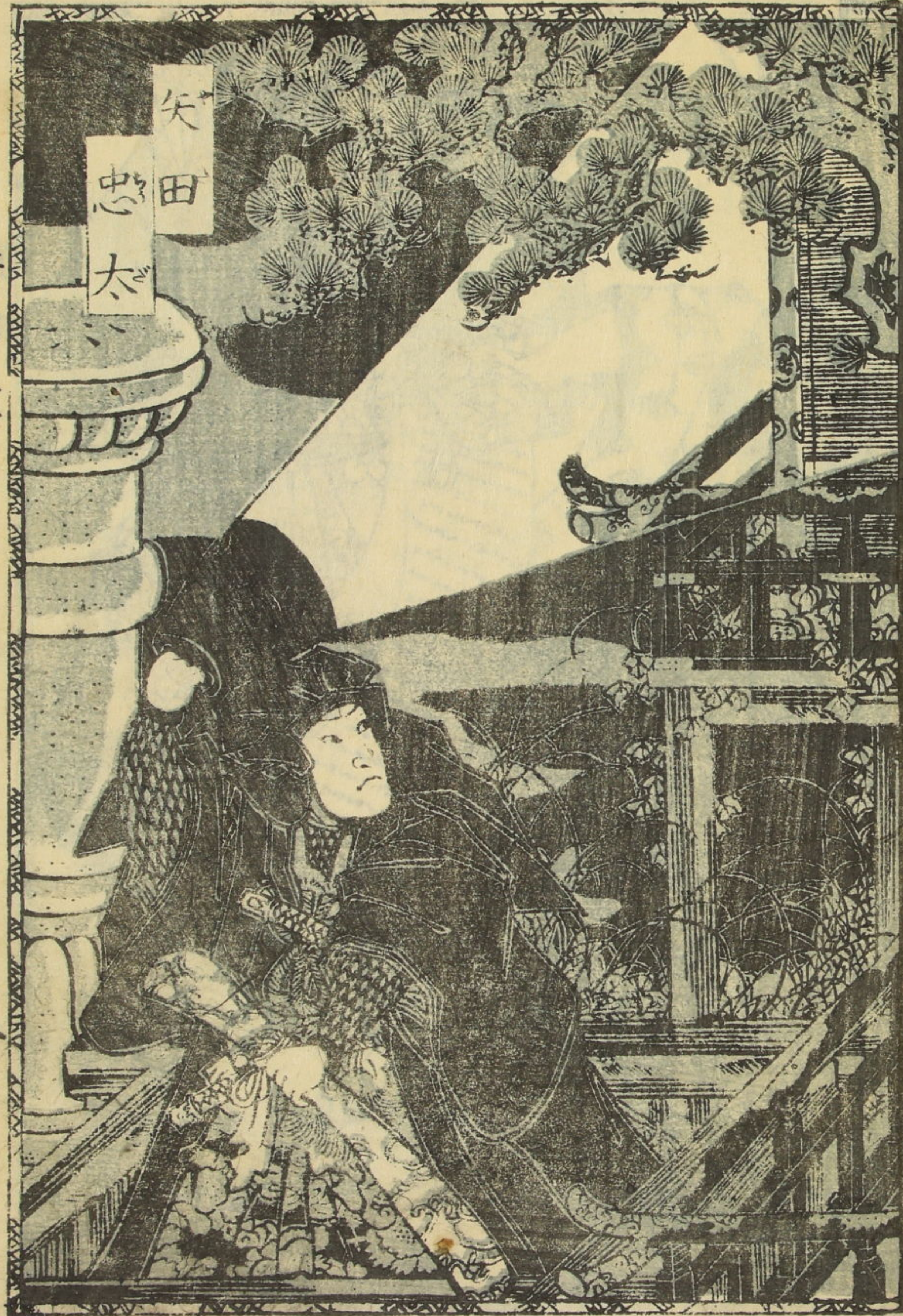
若林堂梓



孝試物格を編んとするに先穂條を以て用ひて又箇條
 ありしは倣ふと狗の裡に測りも借字を採らふは
 同是なるを以て執向は枝葉の場より有りて大約一
 上は二快三快ありのまうり余を以ての
 若林堂梓の後葉を記述する者宿子樂を以て
 幕明を姑く引張る板元の用を以て
 作されば爰りも既に大和乃股の思ひ
 逸莫廿一編より正身丹四節が信義の傳へ

庚申新春吉日 為永春水記





寺

矢田
忠太



十六夜
媛

田



次平
平

猿
曳

野
于
玉
闇
六

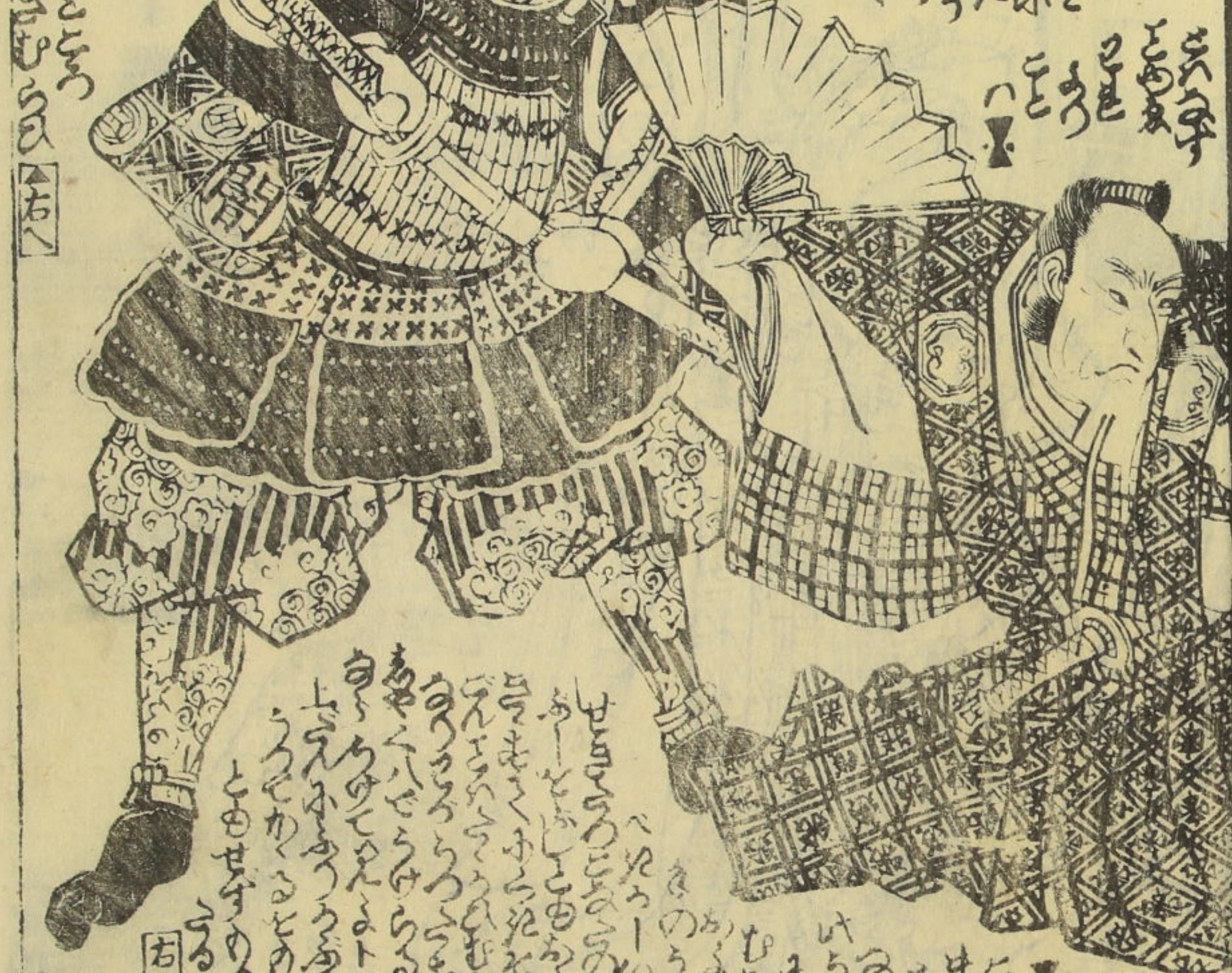
十六夜の
侍
女
松
枝



越
兵
衛

申
作
三
十

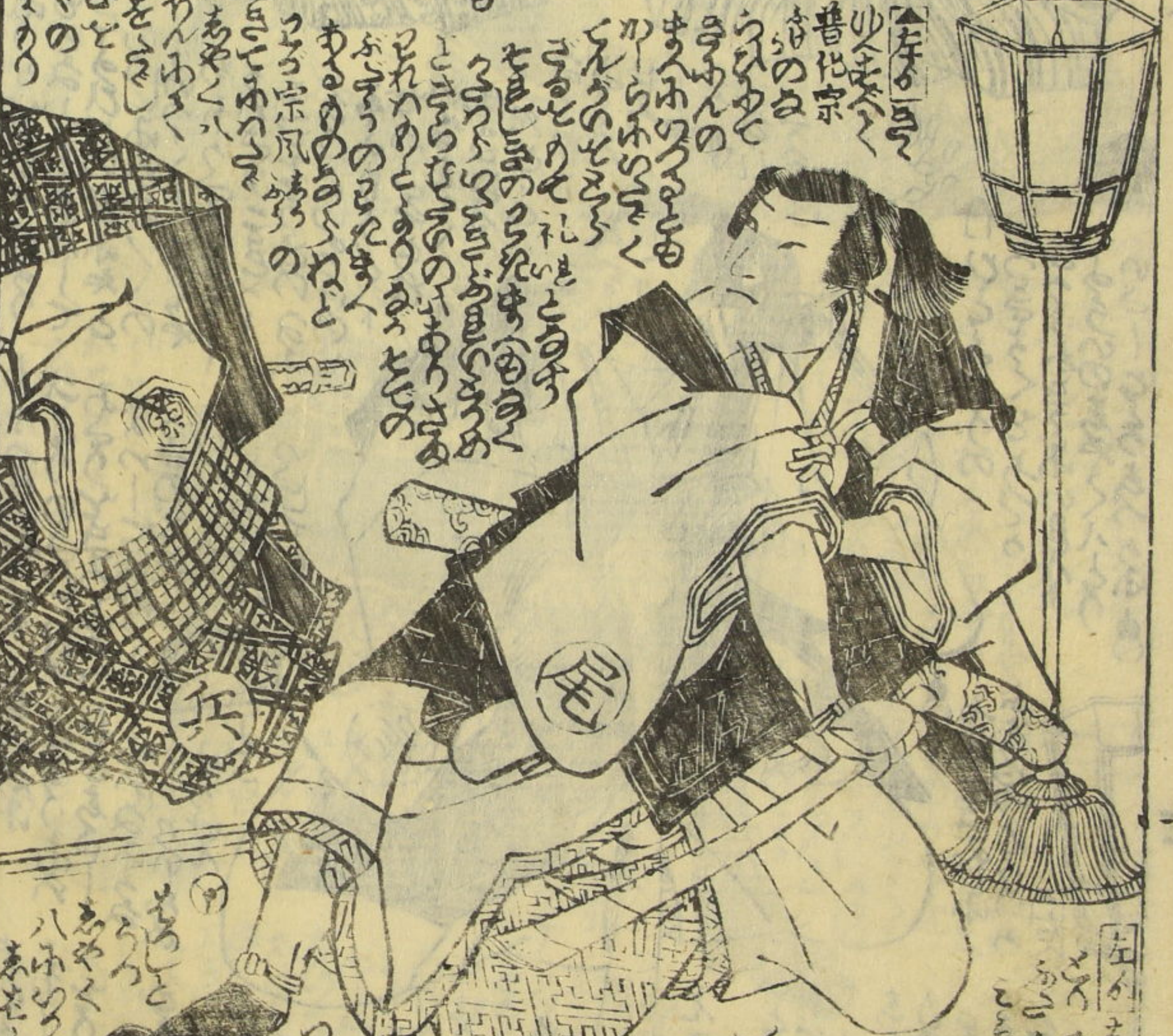
Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely a preface or introductory text.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, continuing the narrative or providing commentary.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or reference.

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, continuing the narrative.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, concluding the scene or providing further commentary.

Vertical text on the right margin of the right page, possibly a page number or reference.



うらやまの
せうせうの
まゝの
とらふの
むすぶの
うらやまの
せうせうの
まゝの
とらふの
むすぶの

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた



あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

